

## I 調査概要

### 1 調査の背景（竹原市人口ビジョン【改訂版】より）

#### ● 人口減少と少子高齢化の進展

本市の人口は、昭和 55（1980）年の約 3 万 7 千人をピークに減少傾向が続き、令和 2（2020）年は、約 2 万 4 千人となっている。年齢構成を見ると、令和 2（2020）年では、年少人口（0～14 歳）8.9%、生産年齢人口（15～64 歳）48.5%、高齢人口 42.0% となり、少子高齢化が進展している。また、その進展状況は、国・県・近隣市よりも速いペースとなっている。

人口の自然増減、社会増減は、ともにマイナスが続き、近年では、年 500 人前後の人口減少が続いている。

#### ● 自然増減の推移（合計特殊出生率の低下）

近年の自然増減の推移を見ると、死亡は、年 400 人前後で推移し、一方、出生は、平成 24（2012）年以降、減少傾向で、令和 3（2021）年は 86 人と近年で最少となっており、これにより、自然減は、年 300 人前後に増加して推移している。

合計特殊出生率は、平成 25（2013）年～平成 29（2017）年で、1.47 と、広島県（1.58）との差が拡大しており、広島県内 14 市中最下位に位置している。

合計特殊出生率に影響を与えると考えられる指標として、未婚率があるが、本市の男女・年齢別の未婚率は、上昇傾向で推移しており、令和 2（2020）年を広島県や近隣市と比較すると、男女ともに、多くの年齢階層で、広島県や近隣市よりも高くなっている。また、生涯未婚率（50 歳時点での未婚率）も上昇傾向で、令和 2（2020）年は、男性 32.3%、女性 19.6% となっている。

加えて、出生率の高い年齢階層である、20 歳代前半から 30 歳代前半の年齢階級の女性人口の減少が顕著で、合計特殊出生率にも影響を与えていることが推察される。

#### ● 社会増減の推移（転出超過）

近年の社会増減の推移を見ると、転入は 700 人前後、転出は 1,000 人前後で推移しており、年 200 人前後の転出超過となっている。

転出入の年齢構成をみると、転出入ともに 20～29 歳が最も多く、3 割～4 割を占め、これに 30～39 歳が続く。

また、女性の純移動率を見ると、10～14 歳→15～19 歳以降、30～34 歳→35～39 歳までマイナスが続き、近年では、15～19 歳→20～24 歳や 25～29 歳→30～34 歳のマイナスが拡大傾向にある。

若い世代（10 歳代後半から 20 歳代前半）の年齢層が、進学期、就職期で大幅な転出超過となっており、加えて、近年では、出生に関わる女性の年齢階級で転出超過が強まっている。

### 2 調査の構成

本調査は、市民及び本市からの転出者を対象とした 2 つの調査で構成される。調査の名称は以下のとおりである。

**【市民対象】** 結婚、出産、子育てに関する市民意識調査（以下「市民意識調査」という。）

**【転出者対象】** 竹原市からの転出者を対象とした意識調査（以下「転出者意識調査」という。）

### 3 調査の目的

#### (1) 市民意識調査

結婚、出産、子育てに関する市民の意向等を把握し、少子化対策に係る施策等を検討する上での基礎資料とする。

#### (2) 転出者意識調査

本市の少子化の要因の一つとして、若者や子育て世代の転出超過が考えられるため、本市から転出した理由や、結婚、出産、子育てに関する転出者の意向等を把握し、少子化対策や定住対策に係る施策等を検討する上での基礎資料とする。

### 4 調査の対象

#### (1) 市民意識調査

18歳以上40歳未満の市民2,500人（無作為抽出）

#### (2) 転出者意識調査

過去10年以内に本市から転出した18歳以上40歳未満の者1,975人（全数）

※転出日時時点で18歳以上40歳未満の者で、本市出身者とする。

### 5 調査の方法

無記名アンケート方式

【調査票配布】郵送

【調査票回収】郵送又はオンライン

### 6 調査日程

令和5年8月28日から令和5年9月30日（令和5年10月4日受付分まで）

### 7 回収結果

#### (1) 市民意識調査

回収数 505件

有効回収数 505件

有効回収率 20.2%

#### (2) 転出者意識調査

有効配布数 1,077件

回収数 205件

有効回収数 205件

有効回収率 19.03%

### 8 集計の方法

#### (1) 集計結果の表記

各回答の割合（％）は、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、端数処理の関係から、各回答の割合（％）の合計が100％にならない場合がある。

#### (2) 不明の取り扱い

不明の回答（不明回答・無回答）は除いて集計を行い、構成比を算出している。

また、男女別の数値・図表に、性別不明の回答は含めていない。